



いのち輝け

「白ひつ 関わる」PTA会長 上野 勝弘

去る3月11日に発生した「東日本大震災」における地震・津波での被害に際し、亡くなられた皆様のご冥福をお祈りさせていただくとともに、被災者の皆様には衷心よりお見舞いを申し上げます。

今回の甚大な災害に直面し、連日の壊滅的な被災地報道を受動的に受け続けることで「無関心」なことは最大の罪だと強く思うようになりました。結局そこには毎週末に東北の被災地に向かい続ける自分がありました。誰でも子供の頃は好奇心旺盛かつ興味本位で、何事にも「関わ

「チームメイト」

校長 菊地 透

日頃より本校の教育活動に御理解と御協力をいただきありがとうございます。

この三月までは、学校教育からは距離のある、県の産業労働観光部国際課に三年間勤務しておりました。ある意味では、一県民として学校を外から見る機会であり、教員として得難い経験であったと思っています。

さて、四月の入学式の式辞の中で、「十分でないものを満たそうとして学校はあります。」ということを新入生とその保護者の皆様にはお話しをしました。生徒にとって「十分でないもの」とは何か。それは、社会で

ることをしていたような気がします。しかし最近の我々は、さまざまな場面で自分本位な行動になってしまっている気がしてなりません。これは単に、価値観や社会環境の変化という言葉では済まされない、未来に対しても罪なことだと思えます。

今年度、赴任なされた菊地校長は教職員の皆さんに対して自分の考えをこうおっしゃったそうです。「教育」と言うことを、あえて「教える」と育てるにしたい。つまり、自分自身が初心に戻り、例年通りや現状維持ではなく、自らが一歩前に踏み込んで生徒たちと自立して生きていくための力です。経済的にも精神的にも自立して、社会の中に自分の位置を占めていくための能力や態度を育てるためにあるのが学校だと思っています。

ご案内のように、これからの社会には、高度情報化やグローバル化の進展、個人々の価値観の多様化や人口減少と世代アンバランス、さらに経済の先行きの不透明さなど、生徒たちが越えていかなければならない課題が山積しています。

「進化論」のダーウインは「生き残る生物は、最も強い種でも最も賢い種でもなく、変化に対応できる種である」と言つたとされていますが、困難な状

の関わりを持ち、主導的に「教える」行動を実践しようという考えなのではないかと思っています。

宇都宮南高校も北校舎の耐震補強が終了し、今年度は南校舎の工事に入ります。生徒たちが安全で良い環境で学校生活を送れるようなハード面の整備は確実に進んでいます。となると、次はソフト面のより一層の充実が求められます。学校とPTAが連携して、生徒たちと一緒にひとりひとりが出来る範囲で、自ら「関わる」ことが求められています。

「PTAの役割とは？」「自分のやるべきことは？」何かひとつというものは、力のあるものにとつては大きなチャンスでもあります。

社会そのものがめまぐるしく変化を続ける中で、変化を好機として活躍できる人材を育てるために、私たちが努めなければならぬことは、基礎基本となる広範な知識や健全な態度、失敗を恐れず物事に立ち向かっていく意欲、活動の源となる健康な体、思いやりや勇氣、正義感といった豊かな人間性などを生徒に身に付けさせることだと考えています。

最近、すばらしい言葉に出会いました。「いのち輝け」という、今年度のPTA全国大会のメインテーマです。私たち教職

とつだけでも、出来ることだけでも、自ら関わっていただけられることを願います。必ず、自分自身も新たな気づきも得られるはずですよ。

東日本大震災の影響もあり、開催が危ぶまれた今春の選抜高校野球。その選手宣誓から、我々は大きな感動と勇氣・元氣をもらったような気がします。「私たちに今できること。それは精一杯、元氣を出して戦うことです。生かされている命に感謝し、全身全霊で正々堂々とプレーすることを誓います。」

記憶に残る年。大きな困難に向かつて「頑張ろう！日本」。そして「頑張ろう！爽やか宇南」。員にとつては生徒、保護者の皆様にとつては子ども、社会にとつては宝である、このかけがえない一人ひとりが輝くような存在であってほしいと願っています。

そのためには、学校と家庭の協力、連携は必要不可欠なものです。「学校と家庭、教職員と保護者はチームメイト」。これまで、PTAの様々な場をお借りしてお話ししてきました。学校が果たす役割、家庭でしかできない役割を、それぞれが果たしながら、補完しあう力を合わせて進んで行くことが必要です。どうぞ、御理解と御協力をお願いいたします。

三 学 年

将来を見据えて

三学年委員長 笠間 恵子

昨年度に引き続き学年委員長を務めさせていただくことになりました。昨年度は皆様のご協力を得て何とか一年を終えることができましたこと、お礼申し上げます。

さて、子ども達は最高学年に進級し、自分の将来と向き合うことになりました。今年はある大震災を経験し、計画停電や被災地の報道を目にするにあたって、子ども達なりに何かしら心に思うことがあったかもしれません。そのことが自分の将来に直接つながるとは言い切れませんが、多少の影響はあるでしょう。私達親は、今こうして普通に生活でき、進学や就職と一緒に悩めることに感謝し、この一年、精一杯頑張っていきたいものです。

あと少しになってしまった高校生活。子ども達が有意義に悔いなく過ごせるようにPTAでもより一層の活動をしていきたいと思えます。皆様のご協力とご理解をよろしくお願い致します。



二 学 年

自分のできることを

二学年委員長 鈴木 宏美

昨年度に引き続き今年度も第二学年委員長を務めさせていただきましたことになりました。昨年度は、皆様のご協力をいただき無事に一年を終えることができました。会員の皆様には心から感謝いたしております。

三月の東日本大震災では、多くの人が亡くなり、多くの建物や道路などにも壊滅的な被害が出ました。元通りの美しい風景が見られるまでには、何年もかかるかもしれません。何でもない普通の生活がいかに幸せなことか、わかったような気がしました。子供達にも大きな災害があった、ということだけではなく、人と人とのつながりの大切さ、他人を思いやる優しい心など、何かを学んで欲しいと思えます。そして私たちも子供達の未来のために自分にできることを少しでもやらなければいけないと思えます。

今年度も皆様にご協力いただきながらがんばりたいと思えますので、一年間よろしくお願いいたします。



一 学 年

当たり前が幸せ

一学年委員長 松林 厚子

三月十一日は、県立高校の合格発表の日だった。朝からなんとなく落ち着かず、出先で息子からの「受かったよ」のメールをもらって、ほっと安堵した。同じ日の午後、大きな揺れが襲った。

合格祝いにごちそうを作る気にならず、夕飯は冷凍食品を温めただけにした。

あの日から、たくさんのが変わって。ごく普通に毎日の生活を送れることがありがたいことに気がついた。

四月。子どもたちは、宇都宮南高等学校の生徒になり、学校へ通っている。普通に高校に通えることのありがたみを感じながら、勉強に部活に精進してほしい。これから三年間、自分の選んだ学校で様々な経験をし、大人への道を歩いてほしい。

最後に、役員の皆様、そしてPTA会員のお一人お一人にご指導、ご協力をいただきながら、皆さんと一緒に子供たちを見守っていきたいと思えます。どうぞよろしく申し上げます。



平成二十三年度役員

役職 氏名 支部名

PTA

顧問 菊地 透 学校

会長 上野 勝弘 西

副会長 篠崎 律子 若松原

尾嶋 弘行 雀宮

杉浦八恵子 東

荒川 和江 雀宮

藤田 泰 学校

伊藤 幸恵 陽南

北条 盛夫 学校

尾関登喜子 横瑞

平野 照男 学校

渡邊 廣美 姿川

前原 礼子 下野・下都賀

野澤 克子 下野・下都賀

笠間 恵子 下野・下都賀

鈴木 宏実 横瑞

松林 厚子 西

倉持 明美 下野・下都賀

篠崎美和子 雀宮

月井 祐子 中央

添野 芳枝 下野・下都賀

部活動後援会

顧問 菊地 透 学校

会長 上野 勝弘 西

副会長 荒川 喜昭 雀宮

藤田 泰 学校

吉澤 悦子 北

松丸 繁蔵 学校

深澤由美子 若松原

平野 照男 学校

石丸 浩子 東

村田 伸枝 横瑞

秋山 寿子 下野・下都賀

中村 松林
篠崎(美) 鈴木

笠間(喜) 尾関
荒川(喜) 杉浦

上野(律) 篠崎
尾嶋 篠崎

書記 吉澤

伊藤 芳枝

野澤 前原

伊藤 荒川

会計 深澤

村田 伸枝

倉持 添野

野澤 前原

伊藤 荒川

会計 深澤

村田 伸枝

倉持 添野

野澤 前原

伊藤 荒川

会計 深澤

村田 伸枝